

第6章 熟語くずし・名詞構文

巷の参考書ではあまり重視されていないが、筆者は正確な英文解釈を行う上で、〈熟語くずし〉という概念が極めて重要になってくると考えている。〈熟語くずし〉という呼び名は筆者がつくったものだが、文字通り、文中において熟語がくずれるということである。例えば、次の文の空所に適語が入るだろうか。

- (1) They don't understand the importance we attach () the result.
- (2) In studying geographical material, constant use must be made () maps.

(1) 空所には **to** が入るが、attach to ~ という結びつきではなく **attach importance to** ~ で「~を重要視する」という熟語 or 決まり文句なのである。この importance が関係代名詞の先行詞として前に移動したために語順がくずれた。また、attach importance to ~ で「~を重要視する」とわかっていれば、「彼らは我々がその結果に付与する重要性を理解していない」というかたい直訳ではなく、「我々がその結果をどれほど重要視しているかを彼らはわかっていない」というこなれた日本語で訳すことができる。

(2) 答えは **of** で、これは **make use of** ~ 「~を利用する」という表現が受動態になったために語順が変わったのである。全体で熟語という意識があれば、訳す際も「地図に絶え間のない利用がなされなければならない」という理解困難な日本語ではなく、「地理の教材を勉強する際には、地図を絶えず利用しなければならない」と訳せる。

〈熟語くずし〉という概念がわかっているならば、和訳にも有効だ。では、どういう場合に〈熟語くずし〉という現象が起きるのかをこの章で研究しよう。そして、〈名詞構文〉と通称で呼ばれている構文も一種の〈熟語くずし〉と言えるので、この章で取り上げることにする。

なお、熟語とは「それぞれの単語のもとの意味の組み合わせとは異なる意味を表すもの」というのが定義で、(a) の attach importance to ~ などは正確には熟語ではなく決まり文句なので、本来は“決まり文句くずし”とでも呼ぶべきなのだが、語呂が悪いので、本書では決まり文句なども含めて“熟語くずし”と呼ぶことにする。